

## ユリ ‘シベリア’ の低コスト夜間冷房栽培の検討



写真1 オリエンタル系ユリ ‘シベリア’

表 異なる夜冷方法が8月14日に定植した‘シベリア’の生育と切り花長に及ぼす影響

試験区	収穫日 (月/日)	切り花長 (cm)	茎長 (cm)
終夜冷房区	10/28	92	62
低コスト夜冷区	10/26	88	59
無処理区	10/27	82	55

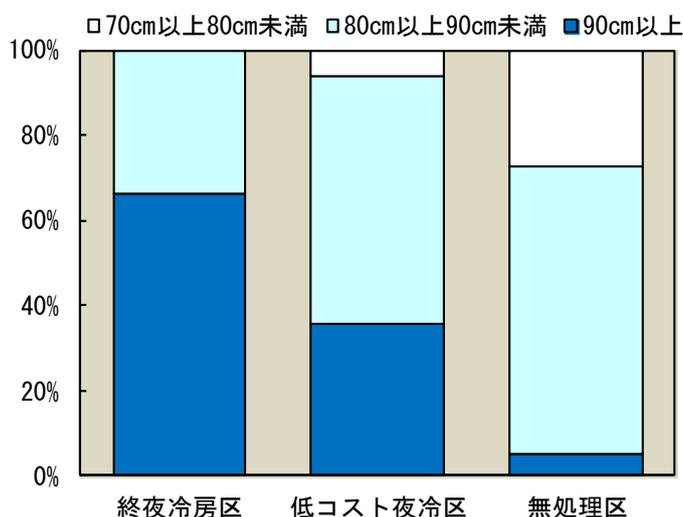


図 8月14日に定植した‘シベリア’の異なる夜冷方法による切り花長別収量の割合

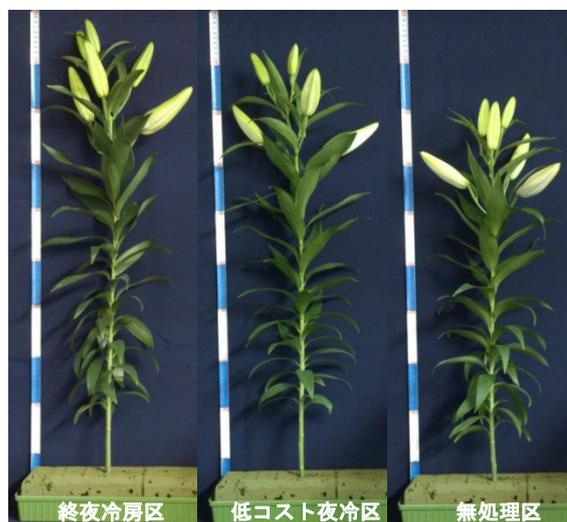


写真2 8月14日に定植した‘シベリア’の異なる夜冷方法による収穫時の切り花の様子

高知県平野部のオリエンタル系ユリは8月から順次定植を行います。高温期である8月定植の作型では草丈の不足が問題となります。その対策として、ヒートポンプエアコンによる終夜(18:00~6:00)冷房栽培が有効であることが明らかになっています。

しかし、高温期の夜間冷房(以下、夜冷)栽培では冷房費用が負担となるため、これをできるだけ削減した低コストの夜冷方法(以下、低コスト夜冷:18:00~23:00を25℃、料金の安い深夜電力を活用できる時間帯の23:00~6:00を22℃で管理)が切り花長に及ぼす影響について検討しました。

‘シベリア’(写真1)を用いて、定植日の8月14日から9月10日まで夜冷処理した結果、低コスト夜冷区では、無処理区(終日サイドを全開)と比べると切り花長が長く、90cm以上の切り花の収量割合が高くなりました。しかし、その効果は終夜冷房区(18:00~6:00を22℃で管理)と比べて小さくなることが明らかとなりました(表、写真2、図)。

今後は、トルコギキョウ、ダリア、ブルースターでも低コスト夜冷栽培試験を行い、ユリも含めてそれぞれの収益性について検討を行います。

(花き担当 門田太志 088-863-4918)